

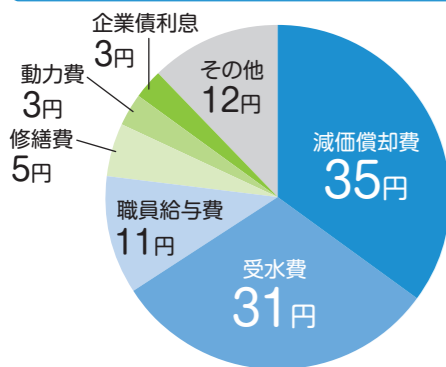
水道料金の使い道

～どんなことに水道料金は使われているの？～

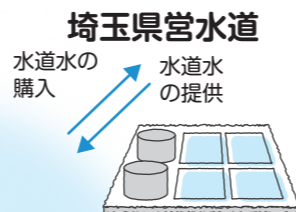
水道事業は水道料金収入で経営しています

水道事業は、日常生活に欠かせない公益事業であり、市町村が経営することが原則となっています。また事業に必要な経費は、税金ではなく、使用者の皆さんにお支払いいただく水道料金で賄うこととされています（独立採算制）。

水道料金100円当たりの使用内訳

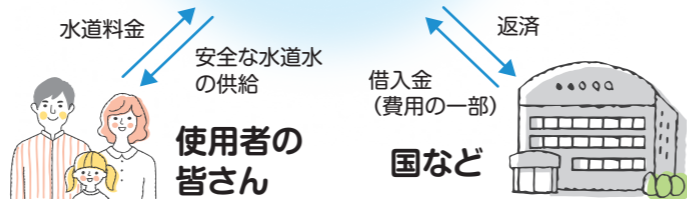


令和4年度のさいたま市の水道料金100円当たりの使われ方を表したグラフです。減価償却費が占める割合が高いのは、耐震化事業や老朽化した水道管の更新事業を進めているためです。



さいたま市水道局

- 水道メーターの検針
- 水質検査
- 漏水調査、水道管などの修繕
- 施設の運転管理
- 施設の整備・更新 など



受水費

水道水の約9割を埼玉県から購入しています

さいたま市では水需要や地盤沈下の防止に対応するため、取水量の約9割を、利根川・荒川水系を水源とする埼玉県営水道から購入しています。上の円グラフの受水費に当たる部分です。

残りの1割はさいたま市の地下水だよ



経常的な費用

安定供給のための経費がかかります

上の円グラフの修繕費、減価償却費、動力費、職員給与費などが当たります。安全な水道水をお届けするための水質検査の薬品代や施設の電気代、施設の修繕費など、経常的な費用がかかっています。

水質検査、漏水調査の様子



施設の老朽化対策

さいたま市の水道は昭和12年に給水を開始しました。現在、浄・配水場や水道管など施設の老朽化が課題となっています。老朽化した水道管は破損しやすくなるため、更新などを適切に行っていく必要があります。

更新時に耐震化しています

老朽化した水道管は計画的に更新し、その際は耐震化を図るために耐震継手の水道管に取り替えています。また、**管路の耐震化率は、19大都市水道局※の中で1位**となっています。しかしながら、管路の46.9%はまだ耐震化されていないため、引き続き管路の更新を実施していきます。

※千葉市と相模原市を除く政令指定都市と東京都で構成

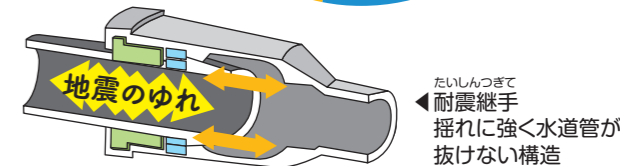
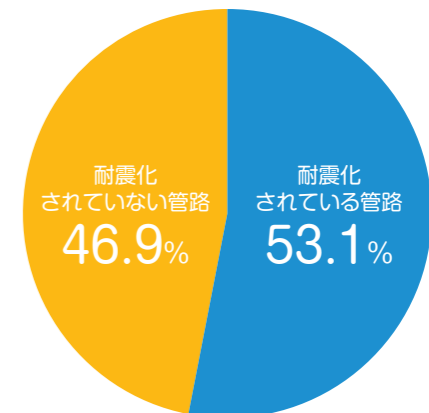


▲古い管 ▲新しい管 ※地震に強い管 ▲工事の様子 ※腐食を防ぐための対策をして、管を埋めています。

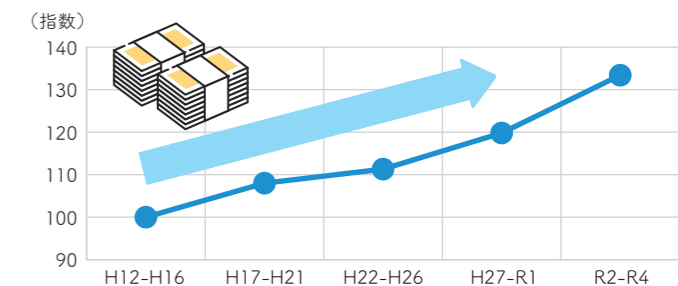
交換は設置当初より多くの費用がかかります

資材や人件費の高騰は、水道事業にも影響しています。老朽化した施設を修繕したり交換したりするには、設置当初よりも多くの費用を必要とします。そのため財源の確保が重要です。

■管路の耐震化率(令和4年度末時点)



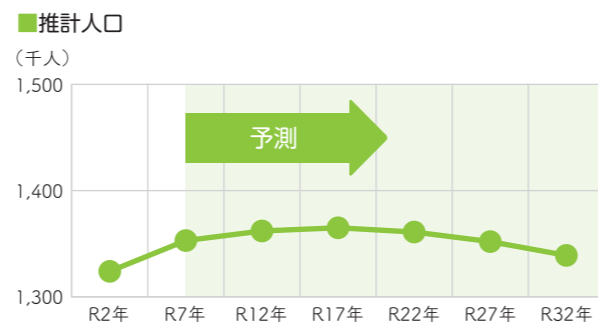
■水道工事費の推移



出典:国土交通省「建設工事費デフレーター」の「上・工業用水道」より作成 (H12-H16を「100」とした場合の推移)

さいたま市の水道のこれから

さいたま市の人口は令和17年頃をピークに減少する見通しであり、また、節水機器の普及やライフスタイルの変化により1人当たりの使用水量も減少しています。そのため、将来的な水需要の減少や水道事業の減収を見込んだ対策が必要です。施設・設備のダウンサイジングなど合理化を図り、ICTの活用やDXなど最新の技術を取り入れることで、サービス向上・業務効率化に努めます。



水需要に合わせた経営を行っていきます



問合せ 水道料金制度について 水道財務課 TEL 714・3074 FAX 832・3336

問合せ 施設の老朽化対策について 水道計画課 TEL 714・3097 FAX 832・1310